

9月24日（金）、郡山支援学校を本会場に、東北地区6県、全11校の肢体不自由特別支援学校をリモートでつなぎ、本校職員を含めて約240名が参加して、第59回東北地区肢体不自由教育研究大会（福島大会）を開催しました。

大会主題「学びの連続性を重視し、子供一人一人の今が輝く肢体不自由教育を目指して」
～今の学びを生涯の学びにつなげる～

趣旨：肢体不自由教育の指導内容・方法等について、パネルディスカッション、講演を通して研究を深め、肢体不自由教育の充実・改善を図る。

○パネルディスカッション

テーマ「感染症対策と学びの保障～これまでとこれから～」

各県代表1名ずつ計6名のパネラーにより、これまでの感染症対策や学びの保障の取組などについて情報の共有や意見の交換を行いました。また、医療面のアドバイザーとして福島県総合療育センター主幹兼副所長の川崎幸彦氏から、医療面での助言をいただきました。



○講演会（事前収録による）

講師 文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課

特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏

演題 「学習指導要領と肢体不自由教育校に期待すること」



全体を通して、参加者からは、

・ Google classroom や Google meet を活用した大会運営、分かりやすく参加しやすかったです。

・ 対面型で開催はできなかったものの、このような状況の中、大変勉強になりました。

・ 画面越しでしたが、直接対話ができ、肢体不自由教育に携わる仲間という意識をもつことができました。

などの感想が寄せられました。

本校では4カ所に分かれて会場を設置し、換気、消毒をしながら参加者同士距離を保って参加しました。

